丸田勝也の生き方

【最終選考課題】

2006.5.20

同志社大学商学部商学科

4回生　丸田勝也

【プレゼンテーマ】

「あなたは人生においてどのような社会貢献を行いたいか？」

丸田勝也　現在　２２歳

【丸田勝也がやるべき社会貢献】

私にしかできないことがあります。
それはたった一つだけです。

『　自らが　【　前例　】　になることで、

いろんな人たちに夢や希望を与えること　』

【将来の夢】

①国や組織に依存せずに自立して生きること。

②丸田勝也という人間の存在、生き方をより多くの人に伝え、人々を啓発し、生きる勇気や夢・希望を与えること。

③世の中に大きなインパクトを与えること。

【現在の心境】

周りは、志高く優秀な方ばかり。
非常に恵まれた環境にいることに日々感謝し、
幸せを感じています。
私には私にしか出来ない使命があって、
それを達成することが残りの人生の使い方です。

(キーワード) 教育 ・ 啓発 ・ 環境 ・ 自信

【具体的な夢】

■自伝の執筆･講演会の実施。

■日本経済新聞からのオファー
『私の履歴書』を執筆。

■松下政経塾を超える
慈善･福祉系財団を設立(２０００億円)

【丸田勝也の原点】

１６８cm…８１キロ,偏差値39
スポーツ･運動など→皆無
学力知識･教養など→皆無
環境は→『だいがく？』

これは、紛れも無くちょうど4年前、
２００２年4月時点、１８歳の丸田勝也です。

【振り返って考えたこと】

■4年前の私は正にこの世の負の部分を集めた存在。
■コンプレックスの塊で、自らの不遇を環境のせいにしていた。

(経験則からの自論)

『子どもは親も環境も選ぶことはできない』

【目指すべき人たち】

豊臣秀吉　坂本竜馬　松下幸之助
稲盛和夫　田中角栄　ビルゲイツ
孫正義　ガンジー　マザーテレサ
白洲次郎　…

というか、
仲間入りする。

最終的には、こうなったらなー、って思います。

（ 銅像 ）

【夢を実現するためのプロセス】

■プロフェッショナルなビジネススキルを身に付ける。(資本主義社会において必要な人材)

■会社の仕組み、お金の流れを知り、社会経験を積み、世界観を広げる→独立

⇒社会的･経済的確立により憧れる存在･尊敬の対象へ

【現在･今後の日本の状況】

社会の二極化が進む

↓

下流社会の拡大

↓

ニート･フリーターの増加

↓

彼らの子どもの教育は…

↓

さらなる二極化の進行…。

【予備校1年+大学3年間の活動】

１８歳　⇒　①２０㌔痩せる

②偏差値３９から同志社大学に入学

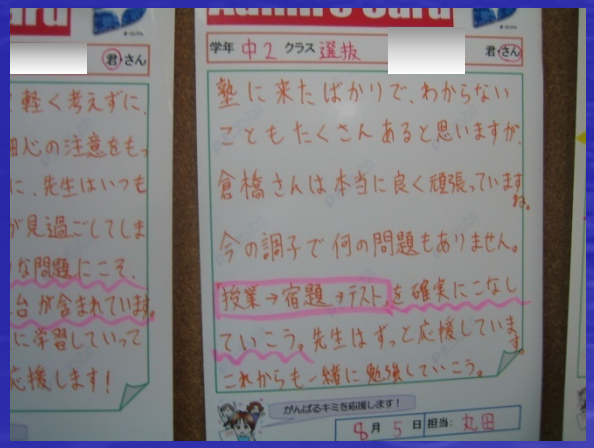
１９･２０歳　⇒　塾講師＆家庭教師

２１歳(大学３年)

■塾講師３年目

大学･高校･中学受験の生徒担当。

(塾講師･家庭教師３年間で、高３～小１までのべ１５０人以上の生徒に指導。)



その他のこと

■経済産業省、起業家育成事業『ドリームゲート』関西選抜3期生。

■議員インターンシップ(京都市議会議員)

■株式会社『ドリコム』ビジネスプランコンテストインターンシップ2005参加
関西選抜(個人ブロンズ賞獲得→最終面接までの権利獲得)

■２１世紀研究機構　･戦略情報研究会　KGSI(関西統治機構研究会)

■恵まれない子どもたち１００人をUSJに連れて行こう！

■京都に棋士羽生善治氏を呼ぶ。

■某部長の指示で祇園で１０ヶ月裏の世界の勉強をする。

【この4年間でわかったこと……】

- 人間やれば何でも出来る
- できるかどうかではなく、どうやるか
- 状況と原因を正確に把握
- 原因自分論
- 自信を持ち、諦めないこと
- 目標を持つこと
- 人を大切にすること　　など

つまり、シンプルなことをいかにやるか。

これだけだと考えています。

今こうして私はここにいます。

4年間で私はここまでこれました。

しかし現在の自分には全く満足していません。

ポテンシャルはまだ1%も使っていません。

まだまだこんなもんじゃなく、成長段階です。

私は自分の人生を確信しています。
守るものも何もありませんし、負ける気がしません。

なぜなら、
私以外にはできないという『使命感』があるから。
知っている者にしか、弱者を救い『啓発』することは出来ない。

彼らにとって一番わかりやすいシンプルなことは、
私が『前例』になることなのです。

以上、ご清聴ありがとうございました。

これからも戦い続けますので、
今後ともよろしくお願いします。